

2021年4月実績概要(メモ)

(2021.5.27)

エチレンほか各誘導品の生産は、定修規模の縮小と稼働率要因から、引き続き多くが前年を上回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 546,200トン

前月比 ▲ 3.2% (▲18,000トン)

前年同月比 +17.4% (+81,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	-
定修要因等	-	+12.5%
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 0.0%	+ 4.9%
生産増減率	▲ 3.2%	+17.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.3%* → 当月95.3% ← 前年同月91.4%
定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減や定修規模差等が合わさり、LDPE、HDPE、MMAモノマー、ベンゼンなどの8品目がマイナス。PP、SM、塩ビモノマー、AN、SBR、トルエンなどの9品目は定修規模差や稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模の縮小や稼働率要因等からLDPE、HDPE、PP、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの14品目がプラス。EG、キシレンなどの3品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数減に加えて、LDPEは稼働率要因から、HDPEは定修規模の増加から、それぞれマイナスとなった。他方、PP、PSは日数減がある中、稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模の縮小や稼働率の改善等からLDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、前月の好調な出荷に対して、当月は、大型連休入りに伴う顧客の稼働日数の減少もあり、4樹脂揃ってマイナスとなった。

前年比では、昨年は、第一回目の全国的な緊急事態宣言のもと、個人消費並びに製造業、サービス産業において急速な減速をきたすこととなった。これに対して、当年は生産活動が上昇基調で推移していることや、消費マインドも一時的に弱含む場面が見られるが、持ち直し傾向が続いている。

汎用樹脂の出荷は、4樹脂で前年を上回り、分野別では、LDPEはフィルム分野の復調が続くとともに、HDPEはパイプ分野、PPは射出成形分野の出荷増加が目立ったほか、PSはほぼ全用途において前年を上回った。

ハ) 輸出

前月比では、前月が期末要因、海外市況動向から好調な輸出となったこともあり、当月はLDPE、HDPE、PPがマイナス。PSのみはプラスが続いている。

前年比では、概ね増加傾向が続いており、当月はLDPE、HDPEのほか、PSで大幅なプラス。PPは国内向けの出荷との兼ね合いもありマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPEで減少。PP、PSは僅かに増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、HDPE、PPは前月並み、LDPE、PSはやや上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PSはほぼ適正、PPはタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LDPE	▲10,600	2.7	2.9
HDPE	▲3,900	2.9	2.9
P P	+3,600	2.3	2.3
P S	+1,700	1.2	1.5

以上

前月からの修正を*で付記